

研究タイトル：

# バイリンガルの単語認識に関する研究



氏名：	ワーナー川原 ジェシー／ WANNER KAWAHARA Jessie	E-mail：	j-kawahara@sendai-nct.ac.jp
-----	--	---------	-----------------------------

職名：	特命助教	学位：	修士(国際文化)
-----	------	-----	----------

所属学会・協会：

研究分野：	日英バイリンガルの視覚的単語認識
-------	------------------

キーワード：	心内辞書、バイリンガル、マスク下のプライミング実験
--------	---------------------------

技術相談	・マスク下のプライミング実験
------	----------------

提供可能技術：	
---------	--

## 研究内容：

### 【実験手法】

心内辞書には単語の音韻、形体、意味等が表象されているとされる。そして、心内辞書の表象と構造について調査する一つの手法として、マスク下のプライミング実験 (Forster & Davis, 1984) が挙げられる。例えば、マスク下のプライムを用いた語彙判断の実験では、被験者にターゲット刺激 (e.g., FALL, POVE) を提示し、それが実在する単語か否か判断させる。このターゲット刺激の提示に先行して、マスク刺激 (i.e., ####) の提示後に、ターゲットと関連のあるプライム刺激 (e.g., fell) 、またはコントロール刺激 (e.g., bank) を 40~60 ミリ秒ほど提示する。関連プライムの提示はコントロールと比較して、ターゲットの語彙判断に要する時間を短くしたり、長くしたりすることがあるが、これはプライミング効果と呼ばれている。そして、プライミング効果が観測されることは、プライムとターゲットの表象間に繋がりがあることを意味すると考えられている。

### 【研究課題】

日本語を第一言語とし、英語を第二言語とする者 (日英バイリンガル) と

英語を第一言語とする者 (英語モノリンガル) の心内辞書の類似点と相違点について研究している。

例えば、英語モノリンガルを対象としたマスク下の語彙判断実験では、現在形動詞 (e.g., HATCH, FALL) をターゲットとし、その過去形 (e.g., hatched, fell) をプライムとして提示すると、現在-過去形間の形態的な類似を模したコントロール刺激 (e.g., hatchet, fill) を提示したときより、語彙判断に要する時間が短くなることが確認されている (e.g., Pastizzo & Feldman, 2002)。このようなプライミング効果が確認されることから、英語を母語とする者の心内辞書には動詞の過去-現在形間の形態的な繋がりが存在することが示唆されるが、同様の繋がりが英語を第二言語とする者の心内辞書にも存在するのかは議論が続いている (e.g., Feldman et al., 2010; Silva & Clahsen, 2008)。そこで、Wanner-Kawahara et al. (2022) では、英語の熟練度が比較的高い日英バイリンガルを対象としてマスク下の語彙判断実験を行った。結果として、過去形動詞プライムの提示はコントロール刺激と比較して語彙判断を促進した。従って、英語モノリンガルと同様に日英バイリンガルの心内辞書にも、英語動詞の過去-現在形間の形態的な繋がりが存在することが示唆された。

### 【参考文献】

- Feldman, L. B., Kostić, A., Basnight-Brown, D. M., Đurđević, D. F., & Pastizzo, M. J. (2010). Morphological facilitation for regular and irregular verb formations in native and non-native speakers: Little evidence for two distinct mechanisms. *Bilingualism: Language and Cognition*, 13(2), 119-135. doi:10.1017/S1366728909990459
- Forster, K. L., & Davis, C. (1984). Repetition priming and frequency attenuation in lexical access. *Journal of Experimental Psychology: Learning, Memory, and Cognition*, 10(4), 680-698. doi:10.1037/0278-7393.10.4.680
- Pastizzo, M. J., & Feldman, L. B. (2002). Discrepancies between orthographic and unrelated baselines in masked priming undermine a decompositional account of morphological facilitation. *Journal of Experimental Psychology: Learning, Memory, and Cognition*, 28(1), 244-249. doi:10.1037/0278-7393.28.1.244
- Silva, R., & Clahsen, H. (2008). Morphologically complex words in L1 and L2 processing: Evidence from masked priming experiments in English. *Bilingualism: Language and Cognition*, 11(2), 245-260. doi:10.1017/S1366728908003404
- Wanner-Kawahara, J., Yoshihara, M., Lupker, S. J., Verdonschot, R. G., & Nakayama, M. (2022). Morphological Priming Effects in L2 English Verbs for Japanese-English Bilinguals. *Frontiers in Psychology*, 13. doi:10.3389/fpsyg.2022.742965

## 提供可能な設備・機器：

### 名称・型番(メーカー)

名称・型番(メーカー)